

経済マンスリー

[日本]

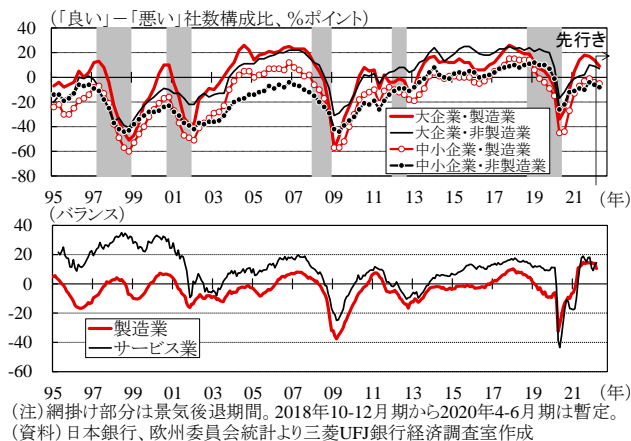
今回日銀短観は企業の業況悪化と価格判断上昇が際立つ結果に

日本経済の今次景気回復局面は、依然国内外の新型コロナウイルス感染拡大状況に左右されており、行動制限やサプライチェーンの混乱等の影響を受け易い地合いにある。それでも、「ウィズコロナ」の進展により内外で経済正常化が進めば回復は途切れないであろうというのが年初時点での大方の見方であったといえる。しかし、ここにきてウクライナ危機及びそれに伴い発動された日本を含む先進国による厳しい対露経済制裁が俄かに不透明感を高める展開となっている。

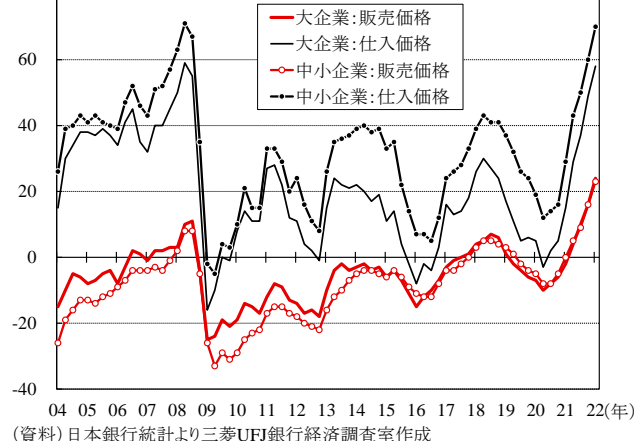
この点、4月1日に公表された日銀短観は、本邦でのオミクロン株まん延とウクライナ危機勃発双方を踏まえた後の最初の企業景況感を示すものとして注目される。まず、景況感を示す大企業の業況判断DI（「良い」－「悪い」社数構成比）をみると、製造業・非製造業いずれも「最近」で悪化、「先行き」でも現状比悪化見通しとなった（第1図）。非製造業の一部において、各種制限措置の緩和進展が追い風となる業種（「対個人サービス」「宿泊・飲食サービス」の「先行き」等）はあったものの、素材産業中心に幅広い業種でウクライナ危機を受けた資源価格上昇や一部供給制約の影響が強く推定される。但し、ウクライナ危機がより身近な欧州の企業景況感指数も同時期に持ち堪えている点を考えると、急激な落ち込みの前触れというよりは、悪材料（コロナ禍、ウクライナ危機等）が重なったことによる一時的な落ち込みである可能性も相応にある。

「インフレ」や「供給制約」が景気判断や企業経営のキーワードとなる中、今回の短観では需給・在庫・価格判断も焦点の一つである。需給判断や在庫水準判断は総じて小幅な変化に止まったが、販売及び仕入価格判断DI（「上昇」－「下落」）はいずれも大企業・中小企業とも大きく上昇し（第2図）、業種別でも面的広がりが確認される。企業の物価見通しも昨年後半以降の上昇は著しい。日銀は現在の金融緩和策を維持する姿勢を堅持しているが、今後企業の価格判断が上昇を続ける場合の政策判断への影響は注視されよう。

第1図：企業・規模別にみた日銀短観業況判断DI(上段)とユーロ圏の企業景況感(下段)の推移



第2図：企業規模別にみた製造業の価格判断DIの推移



主要経済金融指標(日本)
2022年4月1日時点

経済調査室(Economic Research Office)

1. 実体経済

(特記なき限り前期(月)比、()内は前年比、[]内は前年実績)

	2019年度	2020年度	2021年			2021年			2022年	
			4-6月期	7-9月期	10-12月期	10月	11月	12月	1月	2月
実質GDP成長率(前期比年率)	▲ 0.7	▲ 4.5	2.4 (7.3)	▲ 2.8 (1.2)	4.6 (0.4)	***	***	***	***	***
鉱工業生産指数	▲ 3.8	▲ 9.5	1.1 (19.9)	▲ 3.7 (5.8)	1.0 (1.2)	1.8 (▲ 4.1)	7.0 (5.1)	▲ 1.0 (2.7)	▲ 0.8 (▲ 0.5)	0.1 (0.2)
鉱工業出荷指数	▲ 3.6	▲ 9.8	0.7 (18.8)	▲ 4.1 (4.2)	1.5 (0.2)	2.4 (▲ 5.6)	7.4 (3.5)	0.1 (2.8)	▲ 1.6 (▲ 0.9)	▲ 1.3 (▲ 1.7)
製品在庫指数	2.8	▲ 9.8	0.9 (▲ 5.0)	2.5 (0.5)	2.8 (5.0)	0.6 (2.2)	2.0 (5.6)	0.1 (5.0)	▲ 1.4 (4.6)	1.9 (7.3)
生産者製品在庫率指数 (2015年=100)	112.5	122.9	108.2 [142.1]	114.4 [124.0]	117.1 [114.6]	119.2 [115.3]	116.4 [114.2]	115.8 [114.3]	115.3 [108.7]	118.8 [109.8]
第3次産業活動指数	▲ 0.7	▲ 6.9	▲ 0.5 (7.5)	▲ 0.8 (0.3)	2.4 (0.4)	1.8 (▲ 0.8)	0.8 (0.9)	0.1 (1.0)	▲ 0.7 (1.6)	
国内企業物価指数	0.1	▲ 1.4	2.5 (4.6)	2.2 (6.1)	2.3 (8.8)	1.5 (8.4)	0.6 (9.2)	0.0 (8.7)	0.8 (8.9)	0.8 (9.3)
消費者物価 (季調済、全国、除く生鮮食品)	0.6	▲ 0.4	▲ 0.5 (▲ 0.6)	0.4 (0.0)	0.2 (0.4)	0.0 (0.1)	0.2 (0.5)	0.1 (0.5)	0.0 (0.2)	0.4 (0.6)
稼働率指数 (2015年=100)	98.2	87.4	96.7 [75.3]	90.2 [85.1]	94.4 [92.6]	89.7 [93.2]	96.9 [91.9]	96.5 [92.7]	93.4 [95.7]	93.4 [93.0]
機械受注 (船舶、電力を除く民需)	▲ 0.3	▲ 8.8	4.1 (12.6)	1.1 (13.3)	5.1 (6.4)	2.5 (2.9)	2.4 (11.6)	3.1 (5.1)	▲ 2.0 (5.1)	
製造業	▲ 8.1	▲ 8.5	11.1 (26.5)	7.2 (33.7)	3.1 (23.4)	▲ 10.2 (13.0)	7.1 (29.4)	3.5 (27.5)	▲ 4.8 (18.7)	
非製造業 (除く船舶、電力)	6.2	▲ 9.0	▲ 0.9 (2.2)	▲ 3.6 (▲ 1.2)	6.8 (▲ 6.4)	12.6 (▲ 5.4)	▲ 0.5 (▲ 2.1)	0.4 (▲ 10.2)	▲ 1.9 (▲ 7.0)	
資本財出荷 (除く輸送機械)	▲ 5.5	▲ 6.6	9.9 (22.7)	▲ 2.5 (21.1)	▲ 4.2 (10.5)	▲ 0.7 (10.1)	0.4 (10.9)	0.9 (10.9)	6.1 (8.0)	▲ 6.5 (1.3)
建設受注	▲ 5.9	▲ 0.3	(16.8)	(9.5)	(5.9)	(2.1)	(11.6)	(4.8)	(11.0)	(▲ 2.3)
民需	▲ 8.7	▲ 4.9	(16.3)	(18.1)	(16.4)	(11.3)	(15.6)	(20.1)	(28.8)	(15.6)
官公庁	▲ 3.2	29.6	(17.5)	(▲ 8.0)	(▲ 17.3)	(▲ 20.1)	(19.7)	(▲ 32.2)	(▲ 25.6)	(▲ 30.8)
公共工事請負金額	6.8	2.3	(▲ 2.2)	(▲ 12.0)	(▲ 15.0)	(▲ 19.8)	(▲ 14.5)	(▲ 6.6)	(▲ 17.7)	(▲ 9.1)
新設住宅着工戸数(年率万戸)	88.4 (▲ 7.3)	81.2 (▲ 8.1)	86.5 (8.1)	86.6 (7.2)	85.5 (6.1)	87.7 (10.4)	85.1 (3.7)	83.8 (4.2)	82.0 (2.1)	87.2 (6.3)
新設住宅床面積	(▲ 4.5)	(▲ 9.3)	(8.4)	(9.6)	(8.0)	(11.4)	(6.8)	(5.9)	(3.0)	(4.7)
小売業販売額	▲ 0.4	▲ 2.8	(6.5)	(▲ 0.4)	(1.3)	(0.9)	(1.9)	(1.2)	(1.1)	(▲ 0.8)
実質家計消費支出 (2人以上、季調済)	▲ 0.4	▲ 4.9	3.6 (7.1)	▲ 4.7 (▲ 1.5)	4.6 (▲ 0.7)	3.9 (▲ 0.6)	▲ 0.9 (▲ 1.3)	0.2 (▲ 0.2)	▲ 1.2 (6.9)	
平均消費性向 (実数、季調済、%)	66.9	61.3	61.7 [54.9]	62.0 [62.5]	64.2 [65.8]	65.3 [66.4]	65.2 [66.3]	62.1 [64.7]	64.5 [63.2]	63.3 [63.3]
所定外労働時間 (全産業・5人以上)	▲ 2.5	▲ 13.9	2.8 (19.1)	▲ 0.2 (7.3)	▲ 0.1 (4.1)	0.1 (2.1)	2.9 (5.1)	1.4 (5.1)	▲ 1.2 (3.3)	
現金給与総額 (全産業・5人以上)	0.0	▲ 1.5	(1.0)	(0.5)	(0.0)	(0.2)	(0.8)	(▲ 0.4)	(0.9)	
常用雇用者数(前年差) (全産業・5人以上、万人)	96	36	78	66	60	61	60	59	49	
有効求人倍率 (実数、季調済、倍)	1.55	1.10	1.11 [1.20]	1.15 [1.05]	1.17 [1.05]	1.16 [1.05]	1.17 [1.05]	1.17 [1.06]	1.20 [1.08]	1.21 [1.09]
完全失業率 (実数、季調済、%)	2.4	2.9	2.9	2.8	2.7	2.7	2.8	2.7	2.8	2.7
景気ウォッチャー(現状判断DI) (季調済、%ポイント)	38.7	37.7	41.1 [21.6]	41.7 [44.5]	56.5 [44.1]	55.1 [52.7]	56.8 [44.2]	57.5 [35.3]	37.9 [31.9]	37.7 [41.7]
企業倒産件数 (実数、件数)	8,631 (6.4)	7,163 (▲ 17.0)	1,490 (▲ 18.9)	1,447 (▲ 28.4)	1,539 (▲ 12.1)	525 (▲ 15.9)	510 (▲ 10.4)	504 (▲ 9.7)	452 (▲ 4.6)	459 (2.9)

2. 国際収支

(特記なき限り前期(月)比、()内は前年比%、[]内は前年実績)

	2019年度	2020年度	2021年			2021年			2022年	
			4-6月期	7-9月期	10-12月期	10月	11月	12月	1月	2月
通関輸出	▲8.0	▲8.4	(45.0)	(24.9)	(15.7)	(9.4)	(20.5)	(17.5)	(9.6)	(19.1)
価格	▲1.6	1.0	(7.9)	(10.0)	(14.2)	(12.3)	(15.1)	(15.2)	(14.1)	(15.9)
数量	▲4.4	▲9.3	(34.5)	(13.6)	(1.3)	(▲2.6)	(4.7)	(2.0)	(▲4.0)	(2.7)
通関輸入	▲6.3	▲11.3	(23.9)	(36.9)	(37.4)	(26.8)	(43.8)	(41.2)	(38.8)	(34.1)
価格	▲3.9	▲8.2	(17.9)	(27.0)	(35.4)	(30.8)	(35.6)	(39.8)	(32.4)	(35.2)
数量	▲2.4	▲3.3	(5.1)	(7.8)	(1.4)	(▲3.0)	(6.1)	(1.0)	(4.8)	(▲0.9)
経常収支(億円)	186,723	163,021	37,272	42,289	17,067	11,801	8,973	▲3,708	▲11,887	
貿易収支(億円)	4,839	39,017	9,588	41	▲5,833	1,667	▲4,313	▲3,187	▲16,043	
サービス収支(億円)	▲17,172	▲36,636	▲15,824	▲10,520	▲11,108	▲5,754	▲2,142	▲3,213	▲7,379	
金融収支(億円)	205,436	135,618	11,768	55,477	▲6,958	▲8,796	2,185	▲347	12,390	
外貨準備高(百万ドル)	1,366,177	1,368,465	1,376,478	1,409,309	1,405,750	1,404,520	1,405,754	1,405,750	1,385,932	1,384,573
対ドル円レート(期中平均)	108.68	106.04	109.48	110.10	113.70	113.10	114.13	113.87	114.83	115.20

3. 金融

	2019年度	2020年度	2021年			2021年			2022年	
			4-6月期	7-9月期	10-12月期	10月	11月	12月	1月	2月
無担保コール翌日物金利	▲0.046	▲0.031	▲0.019 [▲0.044]	▲0.031 [▲0.039]	▲0.031 [▲0.026]	▲0.027 [▲0.020]	▲0.040 [▲0.032]	▲0.026 [▲0.026]	▲0.020 [▲0.017]	▲0.018 [▲0.016]
ユーロ円TIBOR (3ヵ月物)	0.026	▲0.054	▲0.067 [▲0.041]	▲0.072 [▲0.062]	▲0.064 [▲0.055]	▲0.072 [▲0.055]	▲0.072 [▲0.055]	▲0.049 [▲0.055]	▲0.049 [▲0.055]	▲0.049 [▲0.055]
新発10年国債利回り	0.005	0.120	0.050 [0.030]	0.065 [0.015]	0.070 [0.020]	0.095 [0.040]	0.050 [0.030]	0.070 [0.020]	0.170 [0.055]	0.180 [0.150]
都銀貸出約定平均金利 (前期、月比増減)	0.720	0.686	0.687 (0.001)	0.686 (▲0.001)	0.684 (▲0.002)	0.689 (0.003)	0.689 (0.000)	0.684 (▲0.005)	0.691 (0.007)	0.686 (▲0.005)
日経平均株価 (225種、末値)	18,917	29,179	28,792 [22,288]	29,453 [23,185]	28,792 [27,444]	28,893 [22,977]	27,822 [26,434]	28,792 [27,444]	27,002 [27,663]	26,527 [28,966]
M2平残	(2.5)	(8.1)	(7.7)	(4.7)	(4.0)	(4.2)	(4.0)	(3.7)	(3.6)	(3.6)
広義流動性平残	(1.8)	(4.9)	(6.7)	(5.2)	(4.8)	(5.0)	(4.8)	(4.7)	(4.4)	(4.2)
貸出・預金動向										
貸出残高 (平残)	銀行・信金計	(2.1)	(5.9)	(3.0)	(0.7)	(0.7)	(0.9)	(0.6)	(0.6)	(0.4)
	銀行計	(2.2)	(5.8)	(2.4)	(0.4)	(0.6)	(0.8)	(0.5)	(0.5)	(0.3)
	都銀等	(1.9)	(6.9)	(0.8)	(▲1.4)	(▲1.0)	(▲0.7)	(▲1.1)	(▲1.2)	(▲1.3)
	地銀	(4.5)	(4.5)	(3.8)	(2.5)	(2.5)	(2.5)	(2.5)	(2.3)	(2.2)
	地銀II	(▲5.9)	(6.1)	(3.6)	(0.0)	(▲0.3)	(▲0.1)	(▲0.4)	(▲0.3)	(▲0.5)
信金	(1.1)	(6.7)	(7.1)	(2.6)	(1.0)	(1.3)	(1.0)	(0.8)	(0.6)	(0.5)
実質預金 +CD (平残)	3業態計	(2.6)	(8.5)	(7.8)	(5.1)	(4.3)	(4.7)	(4.3)	(3.9)	(3.5)
	都銀	(3.6)	(9.9)	(7.9)	(5.2)	(4.6)	(5.2)	(4.4)	(4.1)	(3.4)
	地銀	(3.4)	(7.0)	(8.2)	(5.9)	(4.9)	(5.1)	(5.0)	(4.5)	(4.5)
地銀II	(▲5.5)	(6.7)	(5.4)	(0.8)	(▲0.3)	(▲0.1)	(▲0.2)	(▲0.6)	(▲0.7)	(▲1.0)

(注) 新発10年国債利回り、都銀貸出約定平均金利は末値、その他金利は期中平均値。

(資料) 内閣府、経済産業省、財務省、総務省、厚生労働省、国土交通省、日本銀行、東京商工リサーチ、保証事業会社協会統計等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱UFJ銀行 経済調査室 山田 遼 riyou_yamada@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。